

地域特性を踏まえたアウトカム指標の抽出

山口県の地域特性から実感しやすい指標を抽出

山口県の地形や、都市構造等に起因する地域の特性や道路利用者が感じる使い勝手など、総合的にみちづくりの課題や要点を把握・整理し、道路を利用しているみなさんが実感しやすいアウトカム指標を抽出しています。

課題 地域連携の強化

●分散型の都市構造

- ・中規模の都市が点在しており、8つの広域生活圏からなる分散型の都市構造を形成。
- ・それぞれの都市圏が個性を活かしたまちづくりを推進。
- ・市町村合併により地域内連携の重要性が高まる。

●広域ネットワーク整備の不足

- ・山陰側と山陽側を結ぶネットワークが不足。

アウトカム指標 ●圏域中心都市30分圏人口カバー率

課題 住民意向の反映と透明性の向上

●高い山口県の道路利用者満足度

- ・道路全般についての満足度は全国1位。
- ・その他、国道や県道などの幹線道路に対する満足度(1位)、普段使っている生活道路に対する満足度(1位)など11の調査項目のうち、8項目で1位を獲得しており一般的に評価は高い。

アウトカム指標 ●道路利用者満足度

中規模の都市が点在しており、分散型の都市構造を形成している。山陰側と山陽側を結ぶネットワークが不足している。

● : 広域生活圏の中心都市



山陽側の都市部では、事故や渋滞が集中的に発生している。また、都市の交通渋滞はCO₂の発生要因ともなっている。

山陰側や島しょ部では、高速インターチェンジから30分以上、また、3次医療施設まで1時間以上を要する地域が多い。

■ : 高速IC30分圏外エリア

中山間地域では、未改良区間や異常気象時事前通行止め区間が多く、災害時の交通確保に不安を抱える。

課題 山陽側に集中する交通への対応

●渋滞および事故の集中発生

- ・山陽側の都市部における交通の集中や輻輳により、事故や渋滞も集中的に発生。

●自動車交通による環境の悪化

- ・渋滞によるCO₂排出量の増加や沿道騒音による生活環境の悪化。

●利用者の多い旅客施設が集中

- ・新幹線駅、空港など利用者の多い施設が山陽側の都市部に集中。

アウトカム指標 ●渋滞損失時間 ●死傷事故率 ●CO₂排出量(自動車交通) ●歩道設置率

課題 サービス水準の確保と安全性の向上

●低いアクセス性

- ・山陰側には高規格道路がなく、高速ICまで30分以上を要する地域が多い。

●災害に対する脆弱性

- ・未改良区間や要耐震橋梁、異常気象時事前通行規制区間などを多く抱える。
- ・山陽側にしか3次医療施設がなく、山陰側からは60分以上を要する地域が多い。

●公共交通サービスの不足

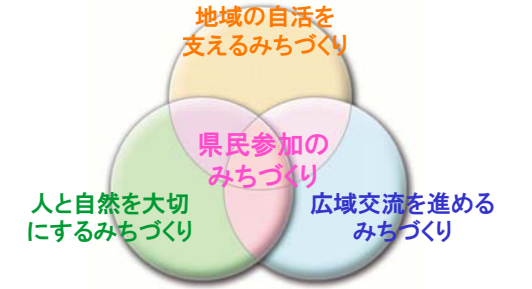
- ・不採算路線の撤退等により公共交通サービスが不足。

アウトカム指標 ●高速IC30分圏人口カバー率 ●要防災対策箇所解消率

アウトカム指標の目標値の設定

数値設定による施策・事業の進捗と目標の明確化

平成17年度の実績値および平成19年度目標値を踏まえ、事業の推進状況等や今後の事業計画等をもとに、平成18年度目標値を設定しました。



政策テーマ	代表指標	H15実績値 (基準年)	H16実績値	H17		H18 目標値	H19 目標値
				目標値	実績値		
地域の自活を支えるみちづくり	①渋滞損失時間 ^{※1} 渋滞のない場合の所要時間と実際の所要時間の差(損失時間)	4,560 万人時間/年	4,321 万人時間/年 (5.2%削減)	4,294 万人時間/年 (5.8%削減)	4,185 万人時間/年 (8.2%削減)	4,133 万人時間/年 (9.4%削減)	4,104 万人時間/年 (10%削減)
	②圏域中心都市30分圏人口カバー率 圏域中心都市まで30分で到達可能な地域に住んでいる人の割合 (圏域中心都市 山口市、宇部市、下関市、周南市、柳井市、岩国市、萩市、長門市の8市)	81%	81%	81%	81%	81%	82%
	③要防災対策箇所解消率 平成8年道路防災点検において要防災対策箇所として指定を受けた箇所の解消割合	19.6%	20.7%	22.6%	22.6%	23.2%	向上に努める
人と自然を大切にすみちづくり	④死傷事故率 交通量および延長(走行台キロ)に対する死傷事故件数	70.7 件/億台キロ	70.5 件/億台キロ ^{※2}	削減に努める	67.6 件/億台キロ ^{※3}	削減に努める	削減に努める
	⑤歩道設置率 県道以上の総延長に対する歩道設置延長の割合	39.8%	40.4%	40.8%	40.8%	40.9%	42.0%
	⑥CO ₂ 排出量(自動車交通) 山口県内の道路交通に関する年間の燃料消費により算出したCO ₂ の排出量 ⁴	320 万t-CO ₂ /年 ^{※5}	351 万t-CO ₂ /年 ^{※6}	削減に努める	332 万t-CO ₂ /年 ^{※7}	削減に努める	300 万t-CO ₂ /年
広域交流を進めるみちづくり	⑦高速IC30分圏人口カバー率 高速道路のインターチェンジまで、30分以内でアクセス可能な地域に住んでいる人の割合	90%	90%	90%	90%	90%	94%
県民参加のみちづくり	⑧道路利用者満足度 ^{※8} 道路使用者(県民)へのアンケート調査等に基づく、道路全般に対する満足の度合(5点満点)	3.05	3.13	向上に努める	3.31	向上に努める	向上に努める

1 プローブデータ(車載器からモバイルデータ通信により収集される車両の位置、速度等の情報)をもとに算定
2 平成16年度確定値(平成16年度暫定値(69.5件/億台キロ)から変更)
3 平成17年度暫定値
4 山口県環境白書における公表値
5 平成11年実績値
6 平成13年実績値
7 平成14年実績値(最新公表データ)
8 道路利用者満足度調査(国土交通省道路局)